

○三河港防波堤(北)が72m延びます！

現在、三河港入口にある防波堤(北)の延長工事を行っています。

防波堤は港内を波浪から守り静穏に保ち、船を安全に係留させる役割を担っています。右の写真でもわかるとおり、防波堤(北)の港外側と港内側では波の状態が全く違い、港内側では波が立っていません。

今年度工事では防波堤(北)は72m延伸され、全体で約2,125mとなります。この防波堤はケーソン(コンクリートの箱)式です。一般的なケーソンは直方体が主流ですが、三河港ではよりコストを削減でき丈夫な、底面が大きい逆T字型をしたケーソン(パットレスケーソン)を採用しています。今年度は長さ9m×幅2.9m(底面幅5.9m)×高さ8.5mのケーソン(290トン)を8函据え付けました。

据付は海が静穏な日に行い、1函据え付けるのに要する時間は約1時間です。クレーンで吊り、据え付けるのですが意外に時間がかかります。

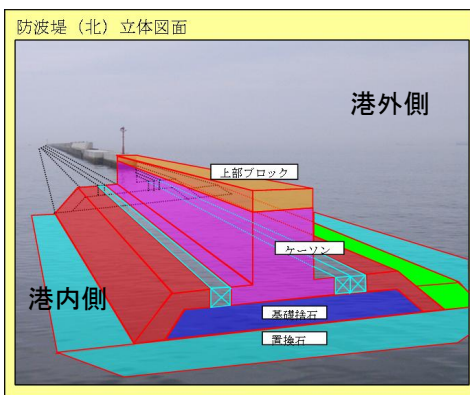
また、ケーソンは据え付けてしまうと数十センチしか海面上に出ないため小さく見えますが、海中には大きく丈夫な構造物が座っています。



港外側と港内側 波の状態の比較



防波堤(北) 位置図



防波堤(北)のイメージ



ケーソン据付状況

○年末年始休暇中の工事現場の安全対策

現在、三河港湾事務所では「平成21年度三河港防波堤(北)築造工事」「平成21年度三河港防波(北)本体及び根固工事」を鋭意施工中です。

年末年始においては、事前に安全対策を施し休暇に入ります。当事務所が担当している上記2件の工事においては、『重点警戒』の看板を設置し、事務所・船着場・工事看板設置場所を巡視点検する予定です。

また、「平成21年度三河港防波堤(北)本体及び根固工事」においては、上記対策の他に工事資材の飛散防止対策を実施します。



工事現場の看板

★ ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧ください。 <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp> ★

国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所発行(No.34)

2009年12月号 **Mini-WAN**
～三河港湾事務所だより～

Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- 第29回豊橋みなとシティマラソン
- JICA研修生三河港見学
- 秋の530運動
- 第6回美しい中部のみなとまちづくりフォーラム開催
- おいなあ市(第3回南知多町豊浜物産市)
- LOVE PORT TOWN Toyohashi 2009
- 三河港防波堤(北)が72m延びます
- 年末年始休暇中の工事現場の安全対策

☆CONTENTS☆



☆巻頭コラム☆



三河港湾事務所長 平井 洋次



早いもので、今年も12月になりました。私も三河に来て半年になります。この半年、色々な経験をさせていただきました。台風18号の高潮、停電、まんが漁等様々です。

業務について、どうにかやってこられたのも、事務所の職員、地域の方々のご協力があったからだと思います。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、最近、豊橋駅を歩いていても、人通りが少ない感じがします。飲み会等もずいぶん減っており、昨年末よりもよくないねえとタクシーの運転手の方も言っていました。

新聞等でも景気の厳しさということは、毎日のように紙面に踊っていますが、街全体をどんよりと覆いつくしているという感じでしょうか。

すぐにどうにかなるという状況ではないですが、一步一步着実に何かしら前進していけばよくなっていくのではないかと思います。

街に元気が戻らないと、港の元氣も沸きません。来年は皆様にとりまして充実した1年となりますようお祈り申し上げます。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>

E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

☆最近のトピックス☆

○第29回豊橋みなとシティマラソン

11月8日に豊橋市にて「第29回オールランナースフェスティバル・豊橋みなとシティマラソン」が行なわれました。

今年は昨年より約600人も多い、約2,100人が参加し、小学生の部から60歳以上の部まで幅広い年齢層のランナーが暖かな秋空の下、豊橋総合スポーツ公園を起点とする三河湾臨海コースを駆け抜けました。

小学生男女は2km、中学生男女は3km、高校生以上は年代や男女別に、5km、10kmのコースを走り、さわやかジョギング部門では親子などが2kmのコースを走りました。

今年は晴天に恵まれ、風もほとんどない絶好のマラソン日和のなか、三河湾の美しい景色を背景にみなさん楽しく走りきることが出来ました。



さわやかな秋空の中、かけぬける選手のみなさん

○JICA研修生三河港見学

11月12日、開発途上地域等への技術協力の支援事業を行っているJICA（（独）国際協力機構）主催で、バングラディッシュ、ブラジル、コロンビア、エジプトなど各国の港湾関係職員12名の研修生を対象に三河港視察が行われました。これは、日本の港湾経営方針や運営等に対する理解を深め、各国の港湾に関わる諸問題の解決、ひいては経済、社会の発展に役立てるため、約2ヶ月の間、全国各地で行っている研修の一環です。

当日は、はじめに三河港が一望できるポートインフォーメーション「カモメリア」で、（社）東三河地域研究センターの高橋主任研究員により「国際自動車港湾（自動車コンプレックス計画）について」をテーマにした講演が行われ、三河港での取り組みをご説明いただきました。その後、フォルクスワーゲングループジャパンにおいて、三河港に本社をおいている理由や自動車産業が集積する三河港の周辺環境などのご説明があり、世界有数の自動車取扱量を誇る三河港への理解を深めていただけたと思います。



カモメリアで話しを聞く各国の研修生

当事務所としても様々な方に三河港を知って頂く良い機会になりました。



○秋の530運動

11月18日、お昼休みの時間を利用して、事務所周辺や、付近の公園のゴミ拾いを行いました。紙くず、空き缶、ペットボトルなどたくさんの種類のゴミが落ちていて分別も大変でした。

この日は風が強く、とても寒かったのですが、作業を終える頃には暑いぐらいになり、食後の良い運動になりました。いつも通っている道が綺麗になるのは、とても気持ちが良いです。

日頃から、自分で出したゴミは自分で持ち帰るよう心掛け、美しいまちづくりを皆さんの手ですすめていきましょう。



集められたゴミの分別作業

○第6回 美しい中部のみなとまちづくりフォーラム 開催

11月14日、豊橋商工会議所にて美しい中部のみなとまちづくりフォーラムが開催されました。「人が集い賑わうみなと、三河港を創ろう！」をテーマに講演が行われ、開催は今回で6回目となります。

本フォーラムは基調講演とパネルディスカッションで構成されており、後半のパネルディスカッションでは基調講演をされた帝京大学経済学部観光経営学科教授 溝尾良隆氏、元「豊橋市百年史」編集委員会会長 秦基氏、NPO法人九州キラキラみなとネットワーク理事長 大谷鮎子氏の他、佐原光一豊橋市長、豊橋商工会議所ええじゃないか推進特別委員会委員長 荒木義夫氏が加わって活発に意見交換がされました。

その中で、佐原市長は「みなとまちづくりは自ら行動する立場になりお客様からのご指摘をいただき、キーマンが継続的な活動が続ける事が大切」と述べられました。今回三河港の現状と課題、今後の方向性について意見が交わされ、最後に三重大学特命学長補佐・都市環境ゼミナール専務理事の渡邊悌爾氏から「三河港は隣接のまち同士が連携して、自慢できるものを見つけ、演出していくことが大切。さらに人のネットワークをつくれば、みなとまちづくりに磨きがかかります。」とまとめられました。



会場の様子

○おいなゝ市（第3回南知多町豊浜物産市）

11月21日、第3回目の物産市「おいなゝ市」が昨年7月、今年4月に引きつづき、豊浜漁港の魚市場で開催されました。主催した「豊浜まちづくり会」は、地元の若者が中心となり異業種の連携によるまちづくりを目指し活動を進めています。

今回の目玉は「せり市」です。豊浜漁港に横付けされた漁船から水揚げされたばかりの鮮魚を一般のお客様が仲買人ごとく、受付で渡された黄色い札を挙げながら購入希望金額を叫ぶ様子は、まさに



せりの開始を待つ参加者



いよいよせりが始まりました。
お目当ての鮮魚は買えたかな？

「せり」そのもの。当日は少し肌寒い気温でしたが、会場は熱気ムンムン、とれたての魚介類がリーズナブルな金額でどんどん競り落とされていました。また、新鮮な野菜や海鮮丼、海産物の販売もあり、多くの人で賑わう活気のある市でした。

○LOVE PORT TOWN Toyohashi 2009

11月21日、22日にホテルシーパレスリゾート（豊橋市神野ふ頭町）において、LOVE PORT TOWN Toyohashi 2009が開催されました。

このイベントは港を産業だけでなく、観光スポットや文化発信源として開発し、地域の元気を盛り返そうという目的と同時に、この地区において関わりの深いドイツにスポットを当て、みなとまちとしてのブランド創造を目指しています。



吹奏楽の演奏を楽しむ人々

開会にあたり、佐原豊橋市長から「みなとは地域の経済を支えている所であるとともに、ここから見る夕日はたいへんな観光資源であるため、一度味わう価値があります。」とみなとをPRされました。

メイン会場のステージでは吹奏楽の演奏やダンスチームからヒップホップなどが披露されました。また屋台も出店しており、ソーセージやドイツに関連した商品なども販売され、カップルや家族連れで賑わっていました。